



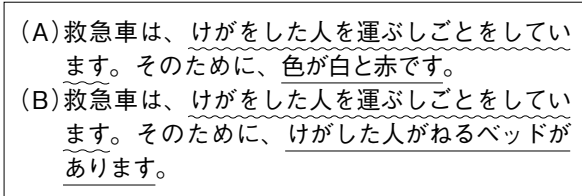
➔ 1年生 | 「オリジナルのりものずかんをつくらう」

# 「つながりのある文章を書く力」を育むための学習支援

## 1. つながりのある文章

文字と出会ったばかりの1年生にとって、文と文のつながりを考えながら書くことはとても高次ではあるが、身に付けさせたい力である。そこで、光村図書「じどう車くらべ」を学習した後に、救急車の〈しごと〉と〈つくり〉についての文章を「書く」活動を設定した。

下の(A)の文章は、救急車の〈しごと〉と〈つくり〉がつながっていないが、(B)の文章は、〈しごと〉に合った〈つくり〉が書かれていることがわかる(図1)。以降、(B)のような文章を1年生が書けるようになるための支援について述べる。



▲図1 救急車のしごととつくり

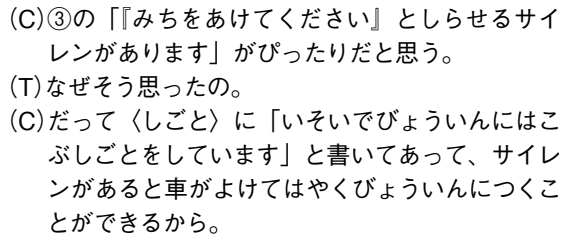
## 2. 支援1

支援1として、救急車の〈しごと〉に対して複数の〈つくり〉を提示して、正しい組み合わせを考える場を設定した(図2)。



▲図2 組み合わせを考える

また、〈つくり〉の正誤を考える際に、「なぜそう思ったのか」と問い返し、理由を語らせることを意識した(図3)。そうすることで「そのために」の役割や〈しごと〉と〈つくり〉に書かれている言葉にこだわる子どもの姿が見られると考えた。

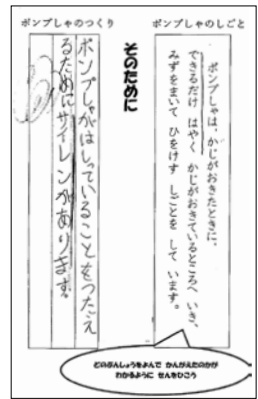


▲図3 児童(C)と教師(T)の発話記録

## 3. 支援2

支援2として、「支援1」で学んだことを活用する場を、授業の終末に設定した。それは、習得と活用を45分間内で行うことで、よりつながりのある文章を書ける力を育むことができると考えたからである。

今回は、ポンプ車の〈しごと〉に対する〈つくり〉を書く場を設定した(図4)。ただし、いきなり書かせるのではなく、学級の子ども達の実態に合わせて、〈つくり〉の選択肢を用意して選ばせることも支援として考えられる。



▲図4 ワークシート

## 4. おわりに

単元の終末では、乗り物の〈しごと〉と〈つくり〉についての文章を書いた。書く時には、図鑑を活用したが、書かれていることをそのまま書き抜くのではなく、自分の設定した乗り物の〈しごと〉に合った〈つくり〉は何かを考え、言葉にこだわりながらつながりのある文章を書く子どもの姿が多く見られた。